

患者にとっての医療情報～がん医療から考える～

読売新聞東京本社記者 本田麻由美

筆者は2002年に乳がんが見つかり、局所再発などもあって3度の手術、抗がん剤治療、放射線治療、ホルモン療法を約10年にわたり受け、一昨年8月に治療を終えた「がんサバイバー」だ。こうした患者の立場から痛感するのは、「治療の選択は生き方の選択だ」ということだ。医療技術の進歩により、多くの疾患で治療の選択肢は増えている。同時に、インターネットなど多くのメディアに様々な情報が溢れている。そんな中で自身の治療を選択するには、病気を正しく理解し、治療の選択肢とそのリスクなどを理解する必要がある。だが、いざ患者となると、きちんと理解しなければと思う気持ちと、そんな怖いことを知りたくないと思ってしまう気持ちが行ったり来たりする。こうした精神状態で、医学的な情報を患者が医療者と共有するのは簡単ではない。また、医学的には最適な治療法でも、自身の生き方や人生に照らし合わせて考えると選択できない場合もある。この患者の考え方や生き方に関する情報を、医療者と共有できなければ、診療の場でお互いに不信感が生まれてしまう。実際、筆者も抗がん剤治療と自身の妊娠出産をあきらめるか否かの選択で、情報共有のために医師と対話を重ねる必要があった。質の高い医療を実現するには、患者と医療者の情報共有が必要だとされるが、それは医療者が一方的に医学的な情報を提供することではなく、こうした双方向の共有であり、医療者はもちろんだが患者・市民も自覚する必要がある。それには対話が必要であり、それが信頼関係につながると確信する。

2006年に制定された「がん対策基本法」成立に向けた動きの発端も、患者たちが「情報は生きる光だ」と患者のための情報提供などを求めたことから始まった。そうした動きの中で、患者たちは何を求め、基本法施行後7年がたった今、どんな形でがん医療情報が提供されるようになったのか。それは患者・国民の思いにかなったものなのかを考えたい。

公益財団法人
日本医療機能評価機構
Japan Council on Quality Health Care

「医療の質指標 ポータルサイト」 および 「医療の質に関する webアンケートの結果」 について

公益財団法人日本医療機能評価機構
企画部 菅原浩幸、横山 玲、今中雄一

2012/03/15 資料改訂版（ウェブアンケートフォーム版）

公益財団法人
日本医療機能評価機構
Japan Council on Quality Health Care

医療の質評価

- The Australian Council on Healthcare Standards (ACHS) がQuality Improvement (QI) Awardを1998年から実施している
- Agency for Healthcare Research and Quality (AHRQ) ではQIライブラリを公開している
- 国内では、全日本病院協会、日本病院会、国立病院機構、慢性期医療協会、QIP等の団体でDPCデータを中心にデータ収集および公開に取り組みが広がっている

2012/03/15 資料改訂版（ウェブアンケートフォーム版）

公益財団法人
日本医療機能評価機構
Japan Council on Quality Health Care

医療の質指標ポータルサイト

- 目的: 日本国内の病院団体等が実施している指標を用いた医療の質評価について、指標の定義のまとめを作成し、指標を用いて医療の質評価・改善に取り組もうとする病院・医療者の参考とする
- 内容: 医療の質評価指標リスト、医療の質公表団体リンク集、医療の質公表病院リンク集、医療の質指標プール (DPCデータに基づく指標定義一覧)

2012/03/15 資料改訂版（ウェブアンケートフォーム版）

公益財団法人
日本医療機能評価機構
Japan Council on Quality Health Care

医療の質指標ポータルサイト

医療の質指標ポータルサイトについて

医療の質指標 (QI: Quality Indicator) は、医療の質を定量的に表現しようとするもので、医療の質改善のためのツールとなります。また、この質や公開は、医療機関の透明性を果たすことにも寄ります。一方で、医療の質指標は、病院の経営方針に決められるものではありません。医療の質を総合的に把握することは極めて困難であり、医療には様々な重要価値がある中で、誰でも一部を捉えて全体の質を語ることはできません。医療の質指標をみる際には、その限界を認識しておく必要があります。

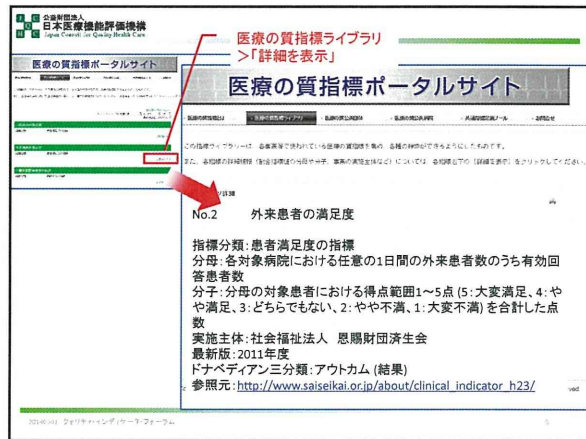
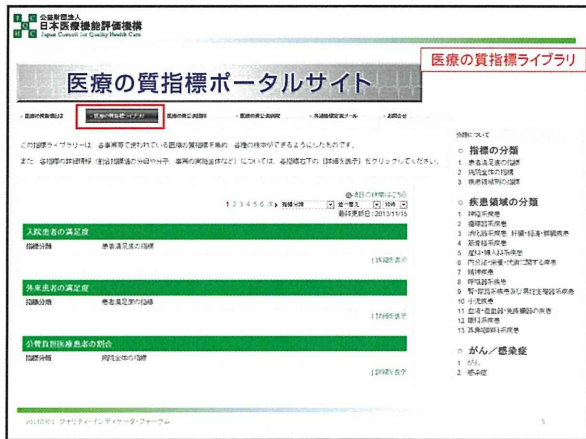
医療の質指標の算出や公開は公開により促進されていますが、医療の質向上に役立つと見られることが期待されます。当ポータルサイトは、病院団体等、多施設で用いられている医療の質指標に関する情報を収集・整理することで、医療の質指標の活用を促進することを目的としています。

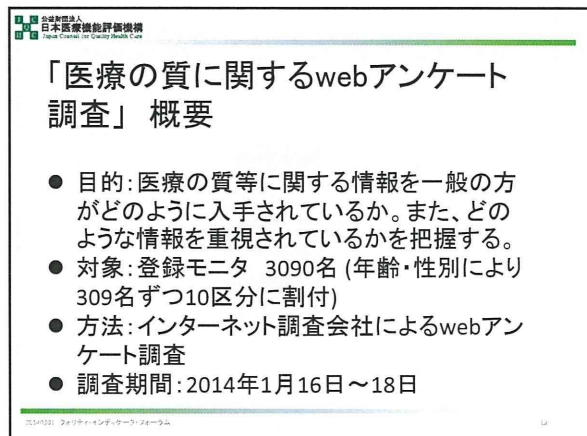
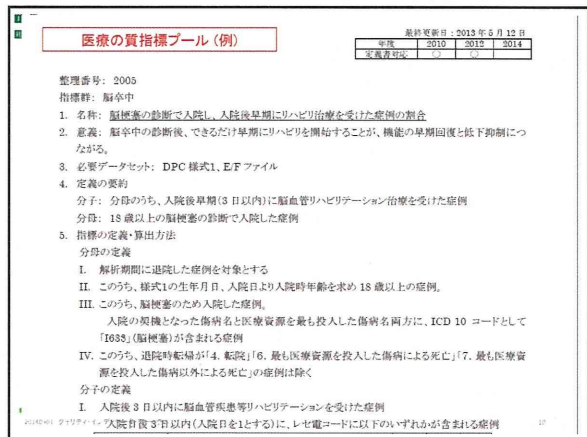
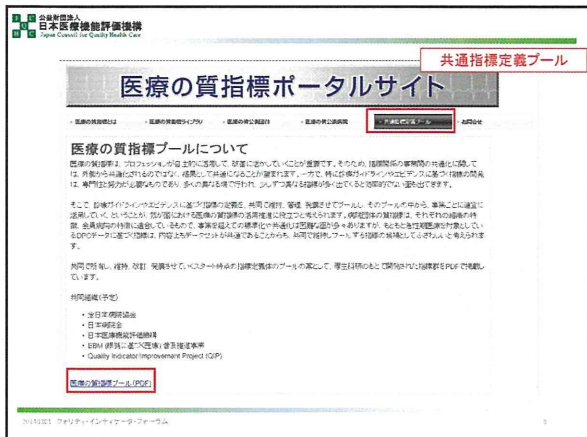
※当サイトの立ち上げは、厚生労働省の平成24年度厚生労働科学研究費(124-医療-一般-000)による。

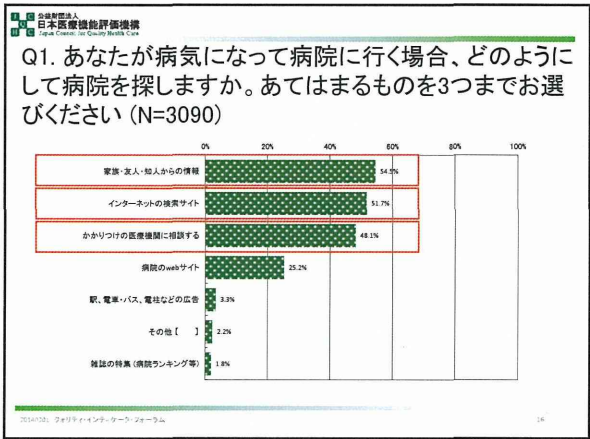
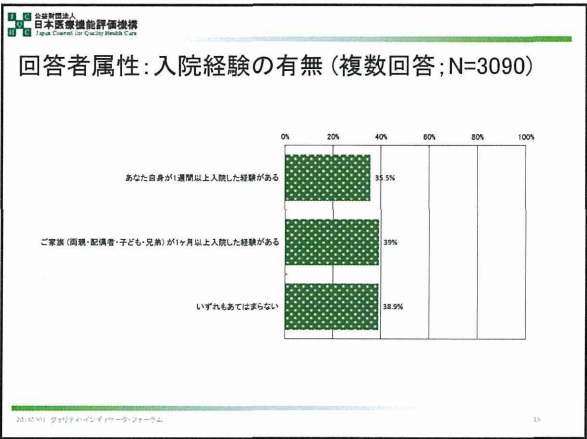
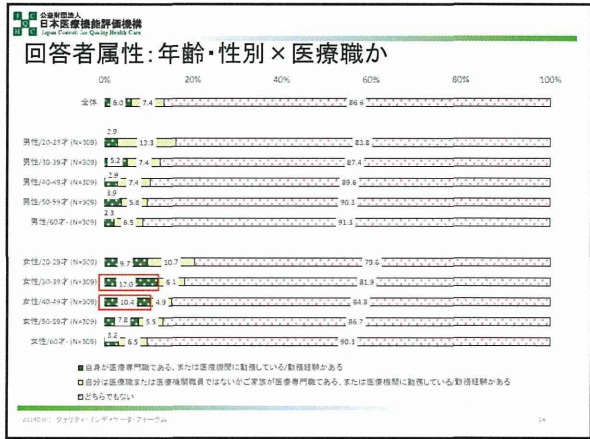
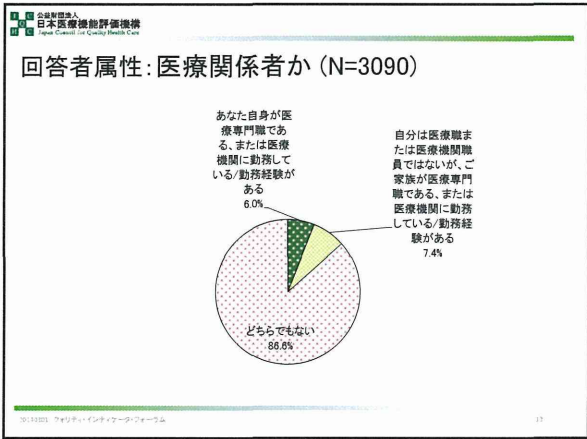
Copyright(c) 2013 The MHLW-funded Research on Standardization and Public Disclosure of Quality Indicators in Health Care. All rights reserved.

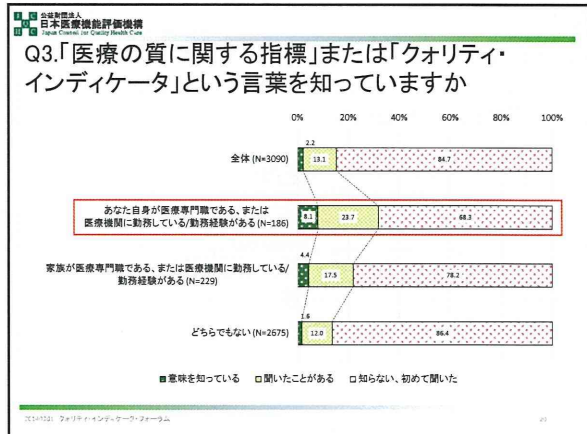
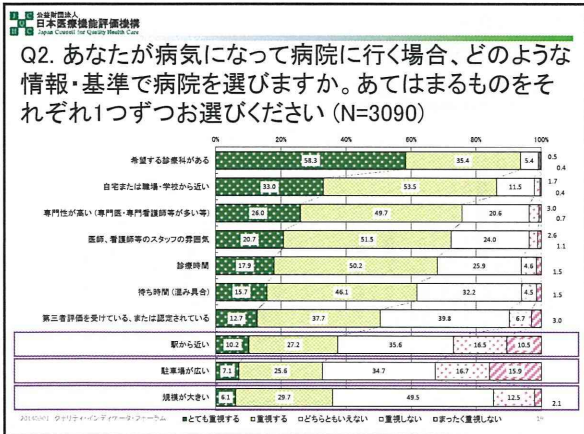
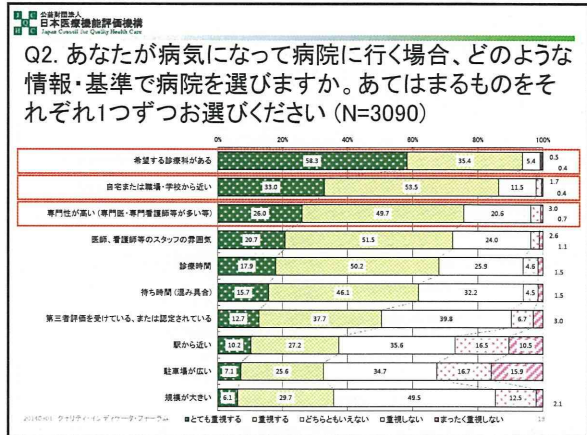
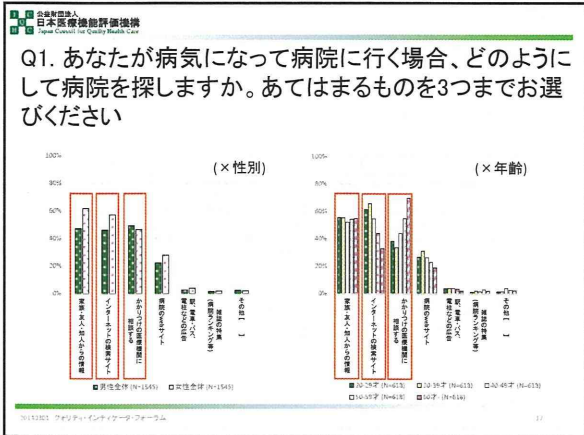
<http://quality-indicator.net/>

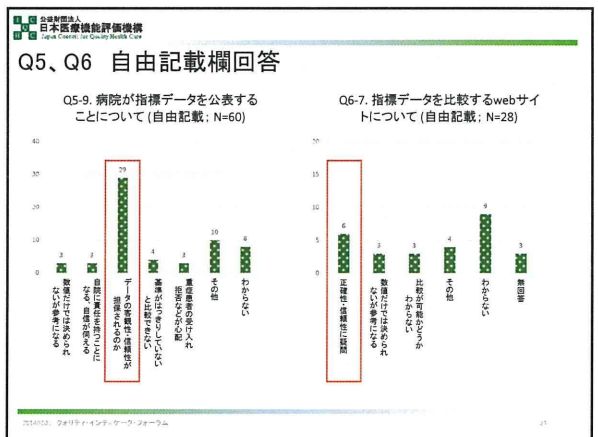
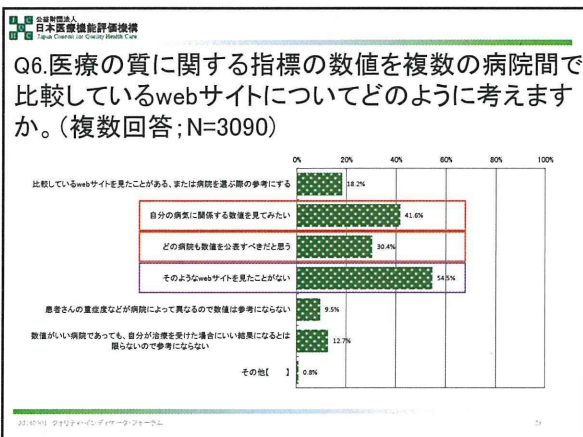
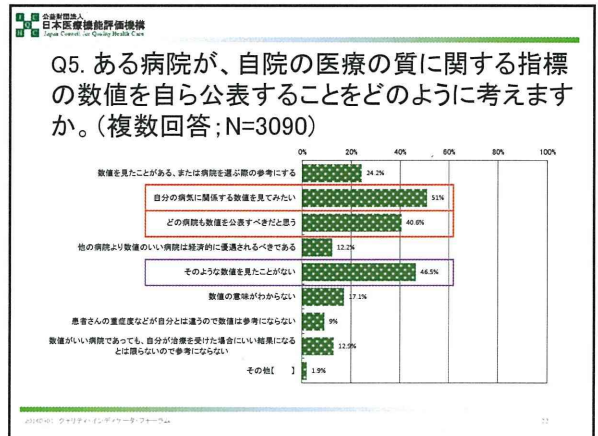
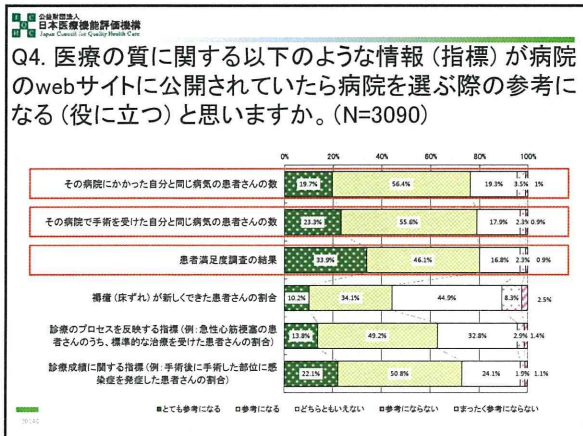
2012/03/15 資料改訂版（ウェブアンケートフォーム版）









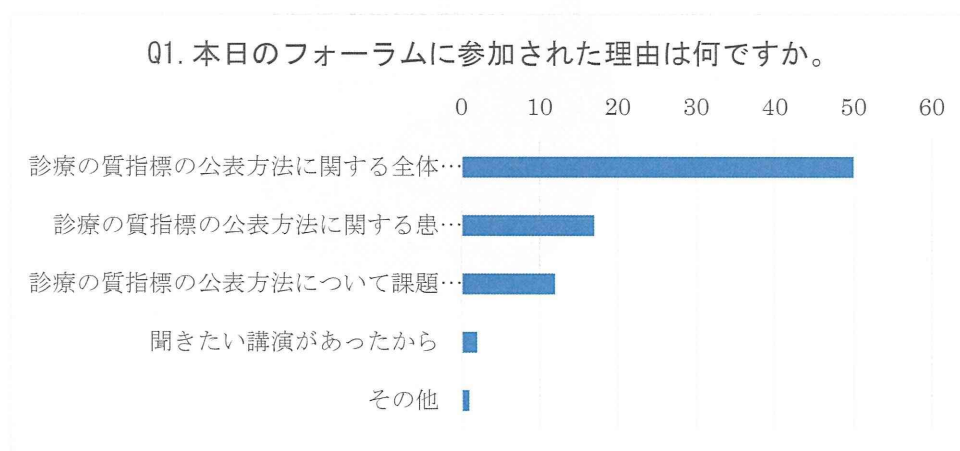


クオリティ・インディケータ・フォーラム アンケート集計結果

- 開催日時：2014年3月1日（土）13時～17時
- 回収総数：74（参加総数92名；回収率80%）

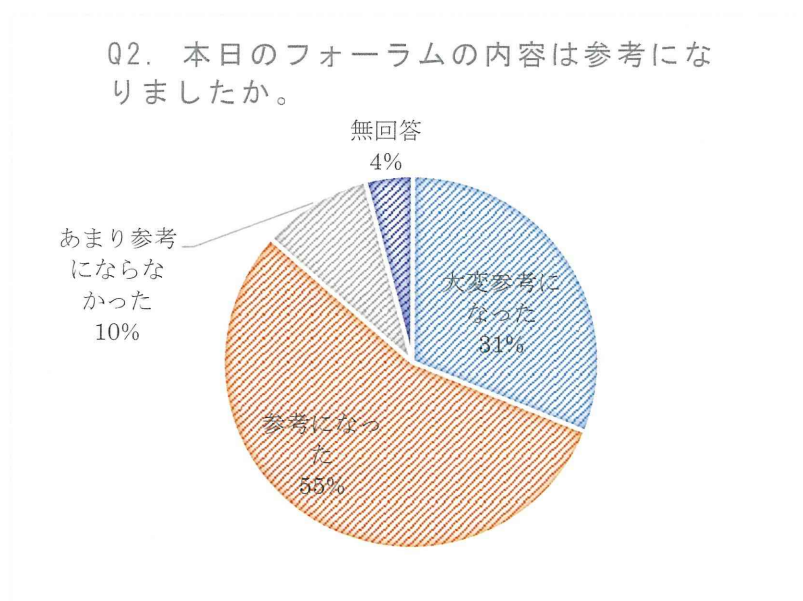
Q1. 本日のフォーラムに参加された理由は何ですか。

回答	回答数	%
診療の質指標の公表方法に関する全体的な状況を把握しなかったから	50	68%
診療の質指標の公表方法に関する患者・マスコミの意見を知りたかったから	17	23%
診療の質指標の公表方法について課題を抱えていたから	12	16%
聞きたい講演があったから	2	3%
その他	1	1%



Q2. 本日のフォーラムの内容は参考になりましたか。

回答	回答数	%
大変参考になった	23	31%
参考になった	41	55%
あまり参考にならなかった	7	9%
全く参考にならなかった	0	0%
無回答	3	4%



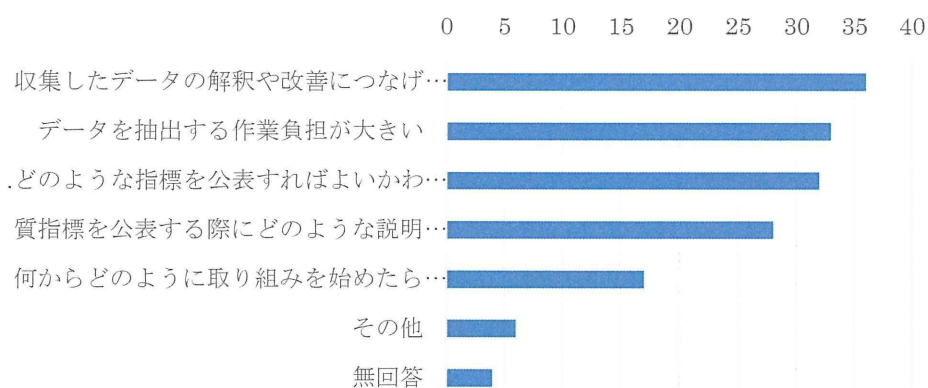
Q3. 本フォーラムを受けて、質指標の公表に関してどうお感じになったか、ご意見をお聞かせください。

主な回答
患者視点の大切さを改めて感じた。
患者の求める指標が分かったので、今後活用していきたい。
患者・市民の会と協力して QI に取り組んで生きたい。
これまでの取り組みを見直すきっかけとなった。
QI を積極的に公開すべきであると感じた。
QI をランキングや格付けに使用すべきでないと感じた。
患者が知りたい指標と医療者が提供する指標のギャップにどうアプローチしていくか、さらに検討が必要だと感じた。

Q4. 病院に勤務されている方に伺います。診療の質評価・向上に関する取り組みを進める上で、院内で課題・問題となっていることは何ですか。(複数回答可)

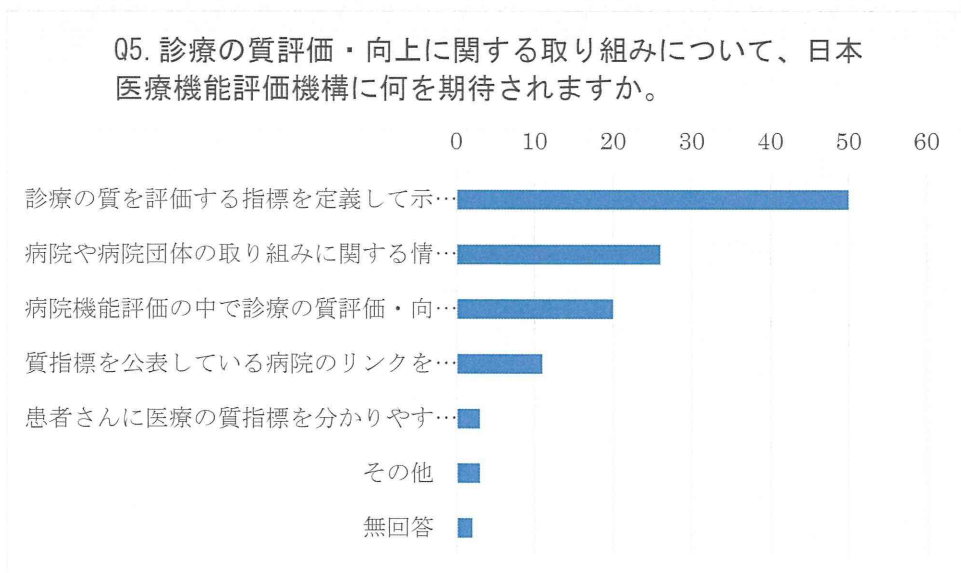
回答	回答数	%
収集したデータの解釈や改善につなげる方策がわからない	36	49%
データを抽出する作業負担が大きい	33	45%
どのような指標を公表すればよいかわからない	32	43%
質指標を公表する際にどのような説明をつければ患者の方に理解してもらえるか分からない	28	38%
何からどのように取り組みを始めたらよいかわからない	17	23%
その他	6	8%
無回答	4	5%

Q4. 病院に勤務されている方に伺います。診療の質評価・向上に関する取り組みを進める上で、院内で課題・問題となっていることは何ですか。



Q5. 診療の質評価・向上に関する取り組みについて、日本医療機能評価機構に何を期待されますか。(複数回答可)

回答	回答数	%
診療の質を評価する指標を定義して示してほしい	50	68%
病院や病院団体の取り組みに関する情報を提供してほしい	26	35%
病院機能評価の中で診療の質評価・向上に関する取り組みを評価してほしい	20	27%
質指標を公表している病院のリンクを教えてください	11	15%
患者さんに医療の質指標を分かりやすく説明する資料を作成してほしい	3	4%
その他	3	4%
無回答	2	3%



Q6. 本フォーラムに関するご意見や、今後扱って欲しいテーマなどがございましたら以下にお書きください。

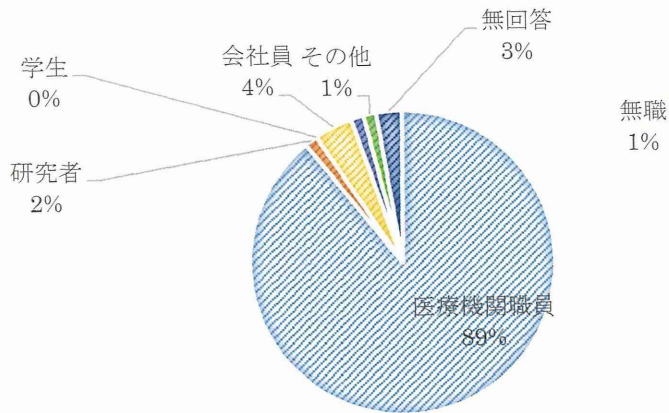
1.フォーラムに関するご意見

主な回答
今後は紹介されたポータルサイトを活用させていただきます。
患者や市民の立場を考えた指標の公表を心がけたいです。
今回のテーマは大変有意義に感じます。今後もできるだけ継続してください。
医療者側ではない方の話を直接聞くことができ大変参考になりました。
患者だけでなく病院側も含めてディスカッションが出来るとさらに良かったのではないかと思います。

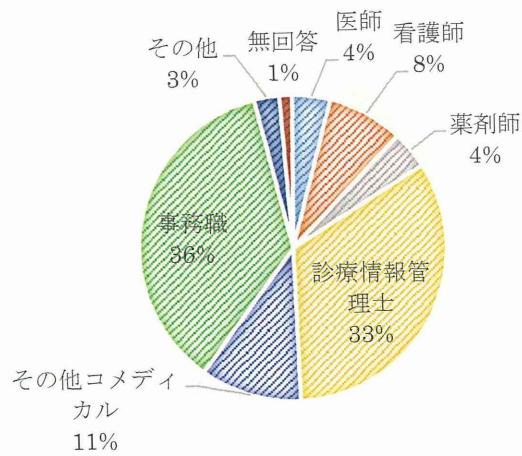
2. 今後扱って欲しいテーマ

主な回答
改善すべき指標の具体例と定義
指標の活用事例
病院はどこまで指標を公開すべきか
データの質を担保するためにはどうすべきか

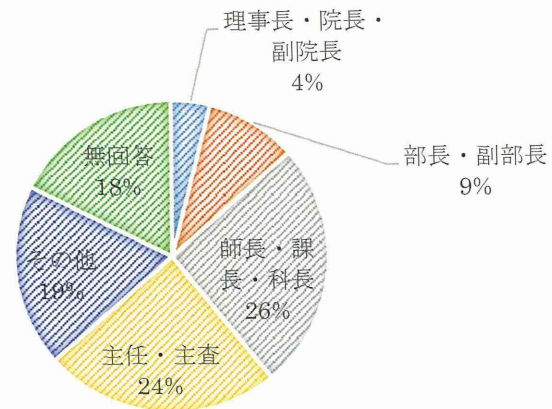
アンケート回答者属性：職業



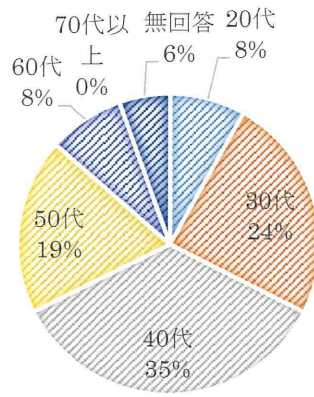
アンケート回答者属性：職種



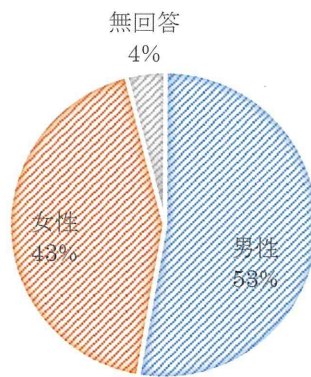
アンケート回答者属性：役職



アンケート回答者属性：年齢



アンケート回答者属性：性別

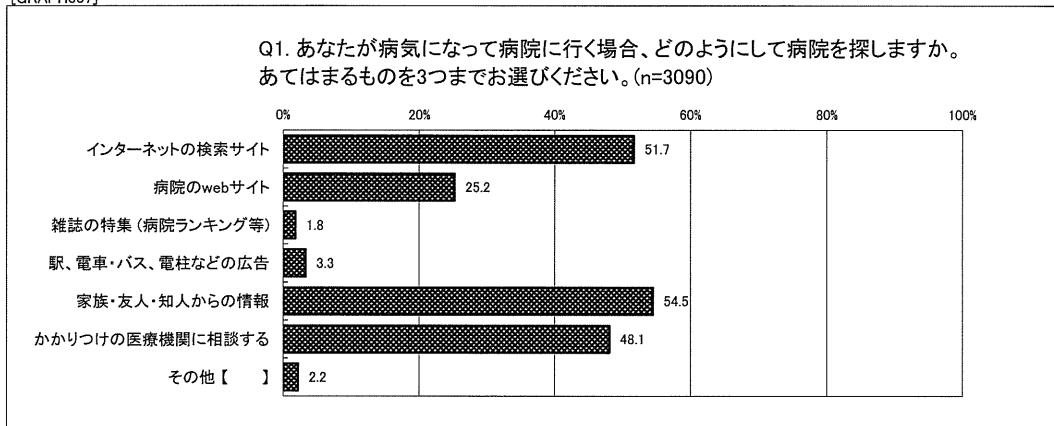


以上

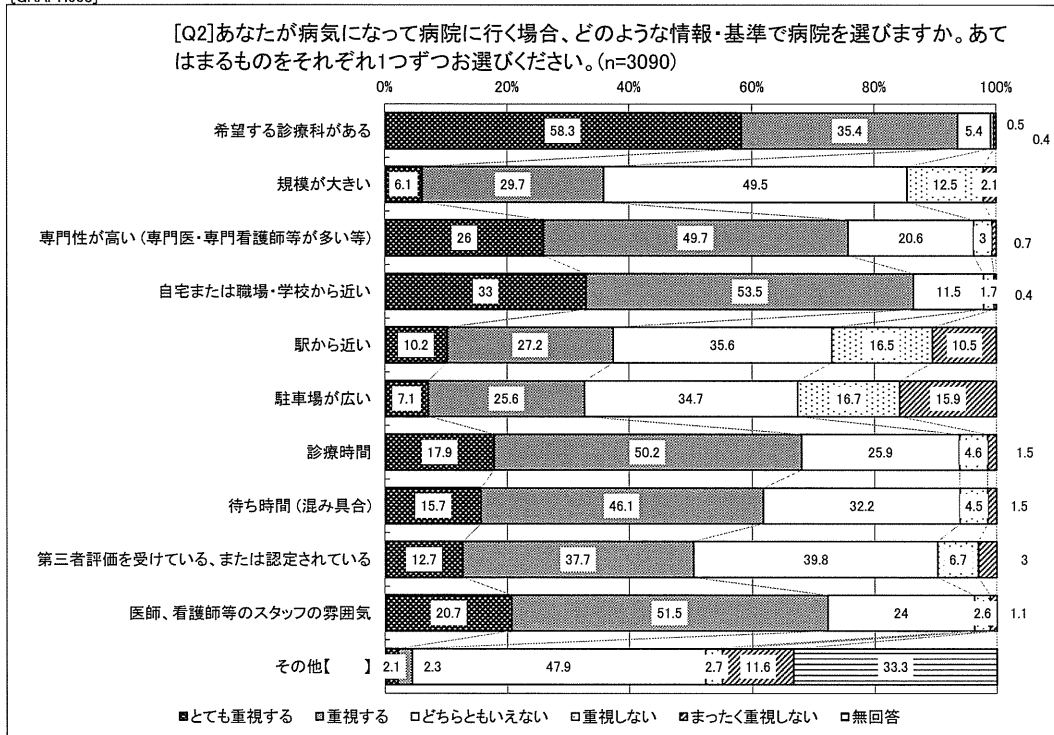
資料 5. 「医療の質に関するアンケート」結果

<webアンケート単純集計>

[GRAPH007]

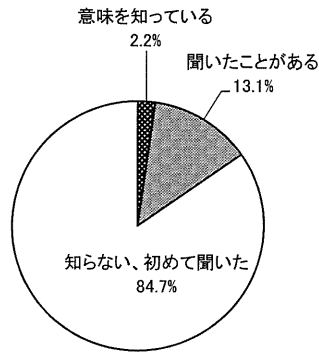


[GRAPH008]



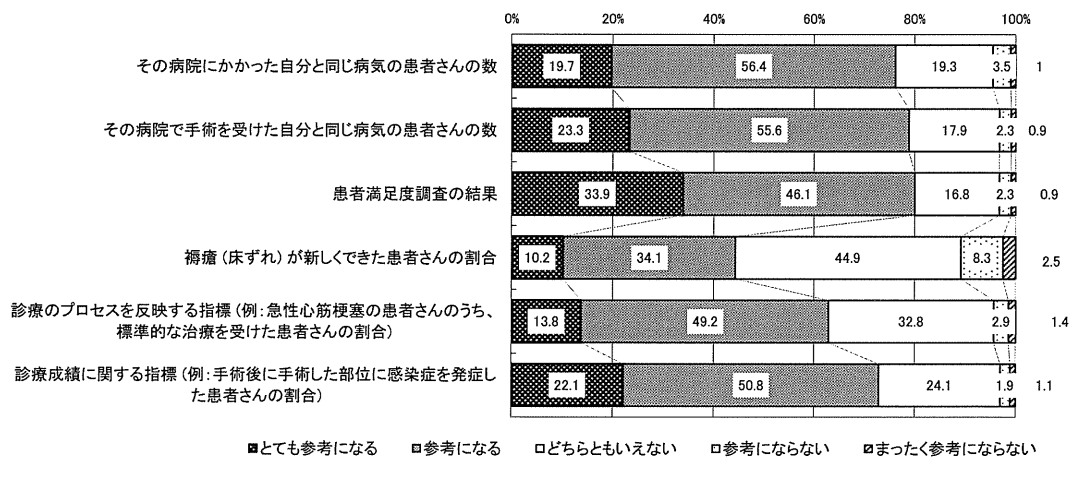
[GRAPH009]

[Q3]「医療の質に関する指標」または「クオリティ・インディケーター」という言葉を知っていますか。(n=3090)



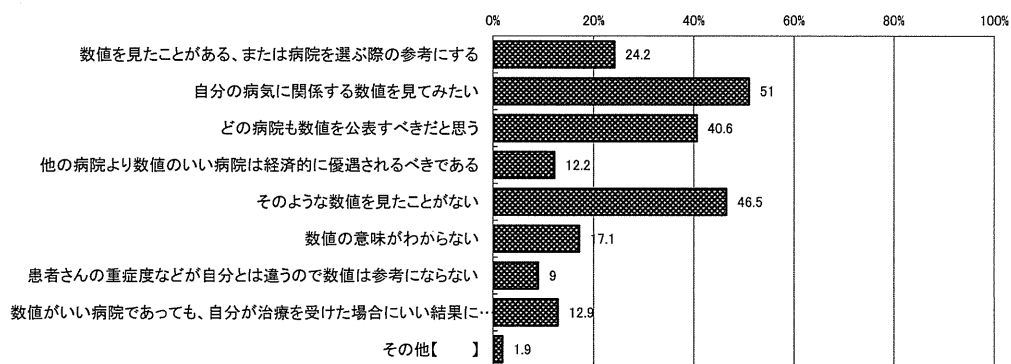
[GRAPH010]

[Q4]医療の質に関する以下のような情報(指標)が病院のwebサイトに公開されていたら病院を選ぶ際の参考になる(役に立つ)と思いますか。(それぞれ1つずつ; N=3090)



[GRAPH011]

[Q5]ある病院が、自院の医療の質に関する指標の数値を自ら公表することをどのように考えますか。(いくつでも)(n=3090)



[GRAPH012]

[Q6]医療の質に関する指標の数値を複数の病院間で比較しているwebサイトについてどのように考えますか。(いくつでも)(n=3090)

